

◇編集後記◇

今回の産業衛生学雑誌には原著1編, 調査報告1編, 話題2編が掲載されている。日本語論文の投稿が少なく, 川上編集委員長より会員の皆様に活発な投稿をお願いした経緯があり, 徐々に日本語論文の投稿も増えてきたことは大変喜ばしいことである。会員の皆様に感謝するとともに, さらに投稿数の増加にご協力をいただきたいと思っている。

さて, 実は産業衛生学雑誌およびJOHの論文は雑誌として会員の皆様に届く前に, J-STAGEに早期掲載されている。インパクトのある研究を1日でも早く公開することが, 日本の研究者を守り, 日本の研究を国際的なレベルで発展させていくことになる。論文がAcceptされた段階で早期公開されることは編集委員会で議論し, 決定したことであり, 認識はしていた。しかし, 改めてJ-STAGE (科学技術情報発信・流通総合システム) を見て大変感激した。非常に広い分野の雑誌の掲載がされており, キーワード検索も可能であり, 論文の全文を見ることができる。昨日はGeNii (学術コンテンツポータル) から他領域の文献を探していた際に, 機関リポジトリのリンクがあり, 大学所属の研究者が発表した論文を提供しているサイトから論文の全文を入手することができた。保健や医学以外の多くの領域の論文を見つけるこ

とができるのがこれらのサイトの強みであり, 研究者にとっては利用価値が大きい。最近文献を探すといえば, e-journalが頼りであるが, e-journalの価格が非常に高額になってきているということで, 私の所属する大学は活用の少ないものは契約を解除しており, 所属図書館にe-journalの強化をお願いしていたところである。e-journalの拡大により, 海外文献を入手することが非常にたやすくなったが, J-STAGEや機関リポジトリを活用していくと非商業ベースで日本発信の論文を入手することができる。これらの活動にはもちろん著作権などの問題もあるだろうが, 研究者にとっては様々な論文を読むことができるのはありがたいことである。私のようにJ-STAGEを訪れていない方は一度アクセスしていただきたい。日本産業衛生学会員としてJOH, 産業衛生学雑誌がJ-STAGEに論文を提供していることをうれしく感じた。

このように非常に多くの情報を得ることができるようになった現代であるからこそ, 情報を精選していく研究者側の目が必要なわけであり, 大学院などでトレーニングされているクリティーク critiqueが意味をもってくるのだと改めて感じた次第である。

(荒木田美香子)

正誤表

産業衛生学雑誌 51 巻 2 号 P.29 右段 2 行目

誤: 宇多弘次 正: 宇多弘道

「産業衛生学雑誌」編集委員会

委員長: 川上憲人 (東京大)

副委員長: 荒木田美香子 (国際医療福祉大), 井上和男 (帝京大), 上島通浩 (名古屋市大),
車谷典男 (奈良医大), 堤 明純 (産業医大), 福島哲仁 (福島医大), 森本泰夫 (産業医大)

有澤孝吉 (徳島大), 石竹達也 (久留米大), 市場正良 (佐賀大), 小笹晃太郎 (放射線影響研究所), 掛本知里 (東京女子医大), 川口陽子 (東京医歯大), 熊谷信二 (大阪府公衛研), 黒沢洋一 (鳥取大), 河野公一 (大阪医大), 酒井一博 (労働科学研), 榊原久孝 (名古屋大), 澤田晋一 (独法労働安全衛生総研), 塩飽邦憲 (島根大), 菅沼成文 (高知大), 笠島 茂 (国立保健医療科学院), 埴田和史 (滋賀医大), 竹内 亨 (鹿児島大), 田中昭代 (九州大), 谷川 武 (愛媛大), 土井由利子 (国立保健医療科学院), 中尾睦宏 (帝京大), 橋本英樹 (東京大), 馬場園明 (九州大), 濱田篤郎 (海外勤務健康管理センター), 丸山総一郎 (神戸親和女子大), 三木明子 (筑波大), 村田勝敬 (秋田大), 森 満 (札幌医大), 森河裕子 (金沢医大), 八幡勝也 (産業医大), 吉田貴彦 (旭川医大), 若林一郎 (兵庫医大), 渡辺博且 (産業医大)

〒160-0022 東京都新宿区新宿1丁目29番地8 公衆衛生ビル4階

電話 03-3356-1536 ファックス 03-5362-3746 振替 東京 00100-7-133495 番